

●財団だより●

第 8 回「生体の科学賞」の受賞者

「生体の科学賞」は株式会社医学書院の創立者である故金原一郎氏の「これからの新時代における医学・医療の更なる発展を期する為には、基礎医学医療研究への資金援助とその人材育成が最も重要である」との遺志に基づき 2016 年度に創設された助成金です。

基礎医学領域の有識者で構成された選考委員会、ならびに当財団理事会で審査の結果、下記の方へ交付されることが決定しました。

氏 名 月田 早智子(つきた さちこ)

所 属 帝京大学先端総合研究機構

役 職 教授

賞 金 500 万円

研究テーマ 生体機能システム構築基盤としての上皮バリア研究の新展開

New Advances in Epithelial Barriology as Foundation for the Biological systems

授与の理由

生体と外界との境界(上皮バリア)において、上皮細胞同士が互いに側面で強く接着して体液保持を担い生体恒常性を創出するための細胞間接着構造がタイトジャンクション(密着結合)です。月田早智子博士は、微細構造を保ったままタイトジャンクションを単離する手法を世界で初めて確立しました。この手法を用いて、故月田承一郎博士とともに、タイトジャンクションの主要な構成成分の一つであるクローディンファミリー分子群の発見とその機能解析を進めてこられました。その後さらに、タイトジャンクションの裏打ち構造として、アクチン層・中間径フィラメント層・微小管層の3層構造であるアピカル骨格も発見されています。クローディンは27種類ものパラログからなり、その全貌解明は容易ではありません。月田博士らは個々のクローディンを欠損するマウスを網羅的に作製し、それぞれの機能喪失が気管支肺炎、胃潰瘍、胆石など多種多様な病態と関連することを明らかにしています。さらに現在は、遺伝子改変技術を用いて個々のクローディン分子の機能解析を詳細に進めつつあります。これらの研究はクローディンが関わる上皮バリア機能の多様性と時空間動態の解明に資するものです。月田博士が今後も上皮バリア研究に貢献されることを祈念し、第8回「生体の科学賞」を授与します。

公益財団法人金原一郎記念医学医療振興財団

〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-24 IS弓町ビル7階

TEL 03-3815-7801 E-mail info@kanehara-zaidan.or.jp